

“維新のDNA” 挑戦する気持ちを忘れない

社会建設工学科H21年卒 濱 慶子
(株)熊谷組 国際支店海外工事事務部

1. はじめに

この度は、このような執筆の機会を頂戴し、誠にありがとうございます。私は2009年(平成21年)に社会建設工学科を卒業し、(株)熊谷組という建設会社に入社しました。工学系のほとんどの産業がそうであると思いますが、建設業もまた、男性中心の社会です。本稿では、これから社会に羽ばたく女子学生の皆さんに、私がこれまで経験してきたことを基に、今、私が考えていることをお伝えするつもりでお話しします。

2. 山大時代

思い返してみれば、山大時代の私は少し変わった学生だったかもしれません。あまり友人がいた記憶がなく、現在も大学時代の同級生と連絡を取り合うことはありませんし、そもそも連絡先を知りません。それで寂しい思いをしていたかという、そういう記憶はないので、それなりに楽しい学生生活を送っていたのだと思います。

学部3年生になると就職活動を意識することになると思います。当時は社会に出て特別やりたいこともなく、自分で書いた企業への志望動機を客観的に見たときに、何の根拠もない、うわべだけの言葉であると感じました。漠然と海外で、それも途上国で働きたい、という思いがあったため、学部3年生の修了後に大学を1年間休学し、バックパッカー一つを持ってアジアを旅することにしました。費用はアルバイトをして自分で貯めましたし、授業料も親には負担してもらっていなかったの



で関係ないだろうと思っていましたが、ハタチそこそこの田舎娘が外国に行く、と聞かされたときには親は度肝を抜かれ、さぞかし心配をしたことでしょう。最終的に親を納得させたわけではありませんでしたが、1年間の休学期間は充実したものでした。

飛行機はなるべく使わず、陸路や船で移動するスタイルでした。とある国境の山岳地帯をバスで移動していた時のことです。ぼろぼろのバスで所要時間は約24時間、体力が限界を迎え、窓の外に目をやると、バスはガードレールもない崖っぷちを、喘息の馬の嘶きのようなエンジン音を上げて進んでいました。それに、山道なのにここまでトンネルを一本も見なかったような…。このときの経験が、途上国でのインフラ整備に携わり、安心・安全な生活基盤を支えたい、という思いの動機になっています。

3. 熊谷組での略歴

入社した直後に、山口大学出身であること

を社内で話すと“維新のDNA”と言われたことが強烈に記憶に残っています。その言葉の真意は、山大出身者は常に挑戦心を持ち、ここ一番で底力を発揮するのだそうです。それで私も、ここぞというときには“維新のDNA”という言葉思い出すようにしています。

私は国内の業務に6年半携わった後、現在は海外の業務に携わっています。国内の業務で印象に残っているものは、技術開発が挙げられます。コンクリートの温度ひび割れ対策として一般的に用いられている工法に替わる新しい工法について、FEM解析、研究所での実験、資機材の選定、現場での実証実験など、多くの過程を経て新技術として確立することができ、関係者との信頼関係を構築できたことは技術者としての自信に繋がりました。また、大阪の下水処理場の現場に配属されていた時には、真夏の暑い時期に毎日鉄筋の上に這いつくばって管理をしていたため、BBQのお肉になった気分でしたが、この現場では自分が一番年少であったということ、私を含めて山大のOBが3人もいたということがあり、大変かわいがっていただきました。

海外の業務では、ミャンマーの日系工場の新築工事で外構工事の設計から施工までを経



業務風景

験しました。現地ではローカルスタッフを指導しながら、そして慣れない土地で彼ら彼女らに助けてもらいながら仕事を進めています。海外工事の魅力は、直接的に国の発展に貢献していると感じられること、そして日常的に発生する、日本では考えられないような問題に立ち向かうことだと思います。例えば、日本で一般的な材料が現地では手に入らないときには、①近隣国から輸入する、②設計を変更する、③材料を調達して現地で製作する、の3択となります。身近な例だと、この現場ではアルミ製の窓（アルミサッシ）や網戸を現場で製作しました。

4. 女子学生へのエール

仕事をしていて、自分が男に生まれていればよかった、と思ったことは何度もあります。私のこれまでの建設会社での経験では、女であるが故に目に見えない壁に何度もぶち当たり、そのたびに歯をくいしばってきました。私の心情として、「女は男の3倍頑張らないと、同等と認められない」と思っています。しかし、頑張るための場所すら与えられないことも数多くあります。

それでも私は、後輩である女子学生のみなさんにはエールを送り続けたいと思います。自分が本当にやりたいこと（今の専攻と違うことでも一向に構わないと思います。）を見つけて、それを仕事にしてほしいし、“維新のDNA”を忘れず挑戦心を持ち続け、その仕事にプライドを持ってプロフェッショナルになってほしいと思っています。そしていつか同志として一緒に働く日がくれば、最上の喜びです。

5. 最後に

今この文章を読んでくださっている卒業生の皆さんには、部下から挑戦する機会を奪わないでくださいとお願いしたいです。「女の人は現場よりもバックオフィ

スで働きたいだろう」「結婚した女性は早く
帰宅したいだろう」「小さな子供がいる女性
社員には出張させない方がいいだろう」とい
う考えはアンコンシャス・バイアス（無意識
の偏見）であり、社員の成長の機会や、仕事
へのやりがいを奪うことになりかねません。

女性の働き方に配慮しているつもりでも、そ
のような働き方を望まない人も多くいます。
「できないだろう」から、「できるかもしれな
い」という考え方に少しハンドルを切るだけ
で、社員の成長度合いや、仕事へのやりがい
は劇的に向上すると思います。

事務局からのお願い

○帰省先に会誌が届いている卒業生のご家族の皆様方へ

会誌を直接ご本人にお届けして読んでいただきたいと思っております。また現住所所在地にある地域同窓会からの連絡もありますので、ご子息ご息女の現住所をご連絡いただきますようお願い申し上げます。

○卒業生の皆様へ

毎回、会誌を送るたびに、転居先不明等でのかなりの部数の会誌が返送されてきます。住所、勤務先等変更になった場合は、早めに常盤工業会事務局までご連絡ください。常盤工業会ホームページの「住所等変更手続」会員異動登録フォームからもご連絡いただけます。

○ホームページへぜひご訪問ください

本部行事のご案内・各地域同窓会の紹介や総会案内・クラス会情報・常盤工業会会館宿泊施設や貸室のご案内等を掲載しております。

「現住所及びE-mailアドレス確認」の ハガキを返送ください！

現住所や勤務先、メールアドレスが変更になった方は、同封のハガキに記入され投函ください。メールが利用できる方は、なるべくメールでご連絡をお願いいたします。常盤工業会のホームページからも送信できますのでご利用ください。

常盤工業会ホームページ

<http://park14.wakwak.com/~tokiwa/>

(TOPページ右上の「住所等変更手続」をクリック)

※登録されている情報（現住所、勤務先、メールアドレス）に変更のない方は
ハガキの返送は必要ありません。

連絡先 常盤工業会 事務局

〒755-0039 山口県宇部市東梶返1-10-8

TEL 0836-32-7599 FAX 0836-22-7285

E-mail tokiwa@bc.wakwak.com